

第6号 ばんきんニュース 2007/04/02

支部長より

平成 19 年度の近畿支部長を仰せつかりました紀本でございます。本年度もより一層支部運営につきましての皆様のご助言ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。さて、近畿支部は、昭和 28 年 11 月 29 日の発会式より本年度 54 年目を迎えます。昨年の資料によりますと、本支部は、8 名の名誉会員の先生方を始めといたしまして 1196 名の個人会員の皆様、民間企業 158 社の維持・特別会員の皆様、63 団体の公益会員の皆様により構成されております。

また、個人会員の皆様の年代層は、70 歳代以上 75 名、60 歳代 136 名、50 歳代 240 名、40 歳代 308 名、30 歳代 220 名、20 歳代 214 名と幅広い年代に分布しており、その所属を拝見しますと、京都大学の 80 名、島津製作所の 62 名を筆頭に、産業界 303 社 (580 名)、官公庁機関 64 団体 (102 名)、大学・教育機関 60 学校 (447 名) と、きわめて多岐にわたって御参加いただいております。

このことから伺えますように、分析化学は

過去半世紀あまりの歴史を経て、今や社会に幅広く浸透しており、化学のみならず物理、生物の分野を含め、あらゆる応用分野におきまして、およそ“もの(物質)”を取り扱う際には、それを“はかる”道具として当たり前のように使われております。正直申し上げまして、学会として、その広いすそ野に対応できていない面のほうが多いように見受けられますが、めまぐるしく変化する社会の中で、学会としての本来の姿を見失うことなく会員の皆様とともに支部運営を進めていきたいと存じます。皆様のご提案、ご意見を心よりお待ち申し上げます。

いろいろとご多忙のことと存じますが、会員の皆様に気楽にお集まりいただき、“学会”が“楽会”の場となるよう努めていく所存でございますので、分野・年代を越えて諸事業についてご企画いただき、ご参加賜りますよう切にお願い申し上げます。

紀本電子工業株式会社

紀本 岳志 (きもと たかし)

目	次
☆ 行事予定・・・p.2	
・第 1 回支部講演会	・第 3 回提案公募型セミナー
・第 54 回機器による分析化学講習会	・第 1 回提案公募型セミナー
☆ 報 告・・・p2～p5	・近畿分析技術研究懇話会第 10 回講演会
・2006 年度第 1 期近畿分析技術研究国際交流助成	☆ お知らせ・・・p.6

行事予定

第 1 回 支部講演会

日時：平成 19 年 4 月 6 日(金)15:00---17:00

会場：大阪科学技術センター 6 階 605 号室

講演：木原壯林先生（京都工芸繊維大学）「電気分析化学の世界に遊ぶ」

渡辺 巖先生（大阪府立大学）「水溶液表面、未知の世界の探検」

詳細：<http://www.bunkin.org/2007/event/190406shibu1.html>

第 54 回 機器による分析化学講習会

日時：平成 19 年 7 月 19 日(木)~20 日(金)

会場：京都大学吉田キャンパス、工学部総合校舎 5 階、材料工学専攻 507 学生実験室

詳細：4 月初旬 HP へ掲載 <http://www.bunkin.org/yotei19.html>

報 告

「'06 年度 第 1 期 近畿分析技術研究国際交流助成」 国際研究集会参加：Australian Colloid and Interface Symposium 2007

☆ Sehgal Pankaj (セガル パンカジ) (大阪市大院・理・博士研究員)

☆ Australian Colloid and Interface Symposium 2007, Australia Sydney: 2007.2.4~2.8



It was my pleasure to attend the “Australian Colloid Interface Symposium” held at Crown Plaza, Coogee Beach, Sydney, Australia from 4th-8th February 2007. More than 300 hundred scientists attended this international symposium from different research field. In this symposium, I have delivered talk on “Mixed monolayer and micelle formation of cationic and zwitterionic surfactant of identical hydrocarbon tail in an aqueous medium:

Interfacial tension, fluorescence probe, dynamic light scattering and viscosity study” and presented poster on “Interaction and stability of binary mixtures of cationic and nonionic surfactants: Interfacial tension and fluorescence probe studies”. Some questions had been asked during my lecture and poster session. I was happy to reply the queries satisfactorily. I have attended the lecture session of keynote speakers as well as from other researchers in the field of spectroscopy and scattering in surface and colloid science, surface forces, nanotriobiology and biological interactions, frontiers of colloid and interface science and pharmaceutical applications. It was a great experience to share the research work with established scientists and upcoming researchers during coffee break time. Apart from this, ACIS 2007 conference was very useful for me to make international relation and collaboration with

international scientists. I gain knowledge of different useful techniques, which can be use for my present research work.
As this conference held at Coogee beach, I had short

time to spent at Coogee beach in warm weather. The view of Coogee beach was extremely beautiful and fantastic. I had visit to town where I visited to different historical places. (Sehgal Pankaj)

第3回 提案公募型セミナー

「分析化学とマイクロ波化学 No.3 –私達が未来の化学・技術を拓く–」

2007年2月19日(月)、関西学術研究都市けいはんなプラザ住友ホール大会議室において、日本分析化学会近畿支部主催の提案公募型セミナー、「分析化学とマイクロ波化学 No.3 –私達が未来の化学・技術を拓く–」が開催された。毎年度開催されてきた本セミナーも3回目を迎えてプログラムも全日に拡大され、8題の講演と地元のベンチャー企業など10団体の展示説明が行われた。会場には、主催の日本分析化学会、近畿分析技術研究懇話会をはじめ、共催の京都府地域結集型共同研究事業、ミネルバライトラボ、後援のけいはんな新産業創出・交流センターなどの関係者を含めて約90名が参加し、盛大なセミナーであった。

分析化学会近畿支部の市村支部長の開会挨拶に続き、講演会が開かれた。副題が示すように、例年にもまして学際的で未来志向のテーマが取り上げられた。分析化学とマイクロ波化学に立脚しつつも、ナノテクノロジー、マイクロ加工、マイクロ化学的な合成や分析および物性計測、さらにエレクトロニクスやエネルギー技術に関する研究成果が発表され、それぞれに白

熱した質疑討論が展開された。

近畿支部の紀本次期支部長の講演総括に続き引き続いて行われた展示説明会には、ミネルバライトラボなどにより開発されたマイクロ波をエネルギー源とする精密化学反応装置の実演をはじめ、「けいはんなプラザ」のラボ棟で研究活動を行っている企業などから光触媒式空気清浄機、分散型無機ELフィルム、自律型ロボットおよびそのソフトウェア、立体型ヒーター、マイクロ加工技術などの実機やパネルなどが展示され、立食形式での質疑ならびに交流会が行われた。交流会は、会場を提供いただいた、けいはんな新産業創出・交流センター取締役の渡辺博氏のご発声で始まり、時間が経つのも忘れるほどの熱心な交流が随所に展開された。最後に、穂積啓一郎先生から味わい深くも力強いご挨拶をいただき、散会となった。

当初は、マイクロ波応用技術研究会員を主として開かれたセミナーであったが、年とともに化学者と機器メーカーがマイクロ波技術を化学に適用するための研究発表および討論の場として充実してきている。今回の講演でも、マイクロ波技術は新しい化学の創出のための有用な方法であることが明らかにされた。今後、さらに多くの人々の参加を得て、新しい化学・魅力ある分析化学の創成に寄与して欲しいものである。

最後に、このセミナーの企画、運営に多大の労をおとりいただいたミネルバライトラボの松村竹子先生に深甚なる感謝を申し上げます。

(大阪市立工業研究所 河野宏彰)



第1回 提案公募型セミナー
「2007年3月3日(土) 大阪市立大学」



分析化学会近畿支部では、20年くらい前でしょうか、渡辺巖元支部長や私などが中心となって、3月に学生を中心とした若手ポスター発表会をしていました。毎年30件ぐらいであったと思いますが、残念ながら数年で終わってしまいました。ここでは書けませんがいろいろ反省点がありました。昨年度、私が支部長になって他支部の活動などを聞く機会が多く、その中には若手の夏のセミナーに100名以上が参加されていることなど、若手の活発な活動をうらやましく思いました。よい機会を与えれば参加する若い方が多くおられる時代になっていると思っています。支部長のときに若手セミナーを開催する予定を立てていながら、昨年度は分析化学年会が近畿支部の番に当たり多くの学生アルバイトが多大な働きをしたのを目にして、その後の若手セミナーの開催を躊躇していました。今回ようやく提案公募型セミナーの中に若手ポスター発表を入れることができましたが、開催通知が遅れ、会委員皆様にはご迷惑をおかけしました。セミナーの内容は以下の通りです。

(1) 講演 (14:00~14:50)

講演者：上海セラミックス研究所

Shangjun Zhuo 教授

講演題目：Determination of trace elements in artificial single crystals

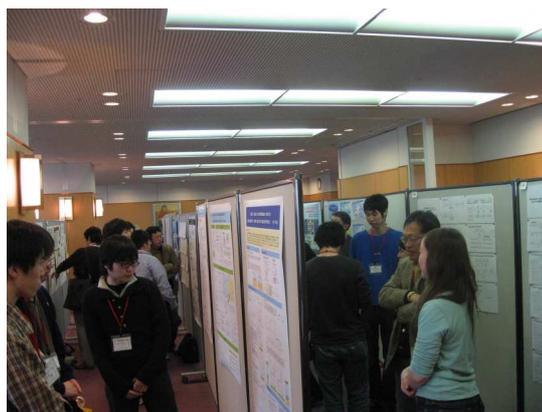
(2) 若手ポスター発表 (15:00~16:45)

(3) 討論会 (17:00~19:00)

大阪市立大学学術情報総合センター10Fの会場に、当日は60名の参加者で、(2)のポスター発表は40件になりました。ここに参加および発表された方にお礼を申し上げます。

Zhuo先生の講演は、金属酸化物の機能性セラミックス材料中の、微量な有用金属や不純物金属の定量についてお話をされました。とくに蛍光X線分析法では、微量分析のための感度を上げる方法などを熱心に語られたことが印象的です。

Zhuo先生の講演の後、少しの休憩の時間を経て約1時間30分の若手ポスター発表が行われました。多くの大学では年度末の各種の行事が行われる時期でしたが11研究室から学生および教員による40件の発表がありました。幅広い分野からの発表になり、学生同士での活発な議論が行われました。その後場所を移し、飲食を伴いながらの討論を続けることし、ここでは和やかな雰囲気での討論会になりました。



本提案型セミナーは準備不足のうち開催されましたが、本年度近畿支部では、宿泊を伴う(若手)夏の学校が計画されているようですので、支部活動の新たな展開になることを願っています。(提案公募型セミナー提案者 大阪市立大学大学院理学研究科 市村彰男)

近畿分析技術研究懇話会

第10回 講演会



片木宗弘 講師



植木眞琴 講師

2007年3月9日、大阪科学技術センターにて近畿分析技術研究懇話会第10回講演会が開催された。今回は「科学捜査・スポーツ現場の薬物分析」をテーマとし、下記2名の講師にご講演を御願した。

1. わが国における違法(脱法)ドラッグ分析の現状

(大阪府警 科学捜査研究所 化学研究室 主任研究員) 片木宗弘氏

2. スポーツにおける対薬物乱用国際戦略とドーピング検査の現状

(株)三菱化学ビーシーエル アンチ・ドーピングセンター ディレクター) 植木眞琴氏



講演風景

片木宗弘氏からは、犯罪に関わるドラッグ分析のお話を戴いた。片木氏は、問題となるドラッグの呼称は「違法ドラッグ」とすべきなのか「脱法ドラッグ」とすべきのかなど、ちょっとした裏話なども織り交ぜながらLC・GC・質量分析・NMR等を駆使した法化学分析の現状を、多数の具体例を挙げながら語られた。違法と合法を分ける異性体分析の難しさが明快にわかる講演であった。

植木眞琴氏からはスポーツ界における薬物分析のお話を戴いた。同氏は長野オリンピックや日韓共催ワールドカップのドーピング検査をご担当されたこともあり、最近ではドーピング大会のドーピング検査指導等もご担当されている。ここではドーピング検査の在り方から人種差を考慮したデータ評価方法確立など、単に「分析装置でデータを取得する」のみにとどまらないグローバルな視点からの講演を戴き、質疑も大変活発であった。

(支部講演会担当 久本秀明)

お知らせ

第1回 幹事会

日時：平成19年4月6日（金）13時～15時

場所：大阪科学技術センター

募集!!：2006年度 **第2期** 近畿分析技術研究国際交流助成

〆切（平成19年4月30日）

<http://www.bunkin.org/index.html>

***** 日本分析化学会近畿支部 *****

あとがき：ぶんきんニュースは、支部会員の皆様のご協力のもとに作成されております。今後も皆さまのご助力、ご支援をお願いいたします。☆ぶんきんニュースでは皆様のご意見・ご要望などの投稿をお待ちいたしております。（大植 正敏）